

北海道教育委員会教育長 様

北海道根室高等学校長 印

次のとおり令和6年度の学校評価について報告します。

1 本年度の重点目標

- |  |
|--|
| 1 地域と連携しながら教育の質の向上を図り、生徒が生き生きと活動する学習機会を設定する。 |
| 2 適切な評価を実施し、生徒のさらなる学習意欲と課題解決能力の向上を図る。        |

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

・ A：十分である B：おおむね充分である C：不十分である D：全く不十分である

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果	
1 カリキュラム・マネジメントの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校長より示されている学校経営シラバスやグランドデザインに則り、特に各教科や分掌において「生徒に身に付けさせたい10の資質や能力」の観点を意識した教育活動が進められた。</li> <li>・根室高校教育振興会から貸与された生徒1人1台のパソコンを授業や探究・進路活動で活用に加え、先生方のアイデアによりGoogle ClassroomやClassi, Canvaなどソフトウェア的な面の活用も拡充されつつある。</li> <li>・夏季のカビ発生による臨時休業等があったが、その後の行事や時間割の組み方を見直し、授業・学習機会の保障に努めた。</li> </ul>	評価	B
改善方策	引き続き、生徒に身に付けさせる力を明確にした指導の実践を行う。また、パソコンのハードウェア面の整備は進んでいるので、ソフトウェア面での活用方法について教員間でも研修していく。	昨年夏の学校閉鎖はニュースで放送され、生徒や教職員のご苦勞が伝わってきました。	
2 地域の信頼に応える魅力ある学校づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・諸事情によりオープンスクールを実施できなかったが、中学校での学校説明会により、中学校との連携や中学生の期待に応えることができた。</li> <li>・公開授業等で小中学校と交流する機会を増やし、授業や生徒指導に関する情報を交換することができた。</li> <li>・安心安全メールによる緊急連絡体制が有効に働いた。</li> <li>・防災教育や探究活動など、地域との連携を取り、学習を進められた。</li> </ul>	評価	B
改善方策	小中学校との交流をさらに深め、特に中学校の状況をよく知ることで、高校の魅力化と入学後の指導に活かしていく。また、これまで以上に学校の情報発信に努め、地域への理解を深めていく。	根室高校の魅力や特色を地域にアピールして、根室高校への進学者が増えることを期待しています。	
3 生徒一人一人へのきめ細やかな指導や支援の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒と教員の面談の機会を増やし、生徒一人の悩みや相談に丁寧に向き合うことができた。</li> <li>・ホームルームや年次、部局同好会を通じて、生徒と教員の信頼関係を培い、そこを基盤とした指導や支援により、生徒の自己指導能力の向上を図った。</li> <li>・いじめ防止に対し、組織的・計画的な取組みに努めた。</li> <li>・特別な支援を必要とする生徒への指導・支援体制を整えた。</li> </ul>	評価	B
改善方策	進路指導に関して今年度の成果を次世代につなげられるよう教員間で研修を行う。また、教育相談について個々の生徒の話し合う時間を増やしていき、いじめ防止や個別の支援につなげていく。	今年度の3年生の地元定着率や高いレベルの大学進学など楽しみです。今後も進路実現のために尽力してください。	
4 組織的・系統的なキャリア教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「2年次インターシップ」では、全て生徒が職業体験をし、自らの職業的な能力や適性を学び、勤労観や職業観を養った。</li> <li>・探究部および地学協働コーディネーターの設置により「総合的な探究の時間」の内容が刷新され、地域の様々な課題について生徒が主体的に考え、動くことができた。</li> <li>・「根高塾」、「怪談師講話」、「防災教育」等で、地域や卒業生の教育力の活用ができた。</li> </ul>	評価	B
改善方策	引き続き、探究活動や学校行事を通じて、地域や同窓生の力を借りながら、郷土愛を深めていく。	郷土愛を育む探究活動や職業体験は大切です。今後も継続してください。	
5 健康でいきいきとやりがいを持って勤務し、教育の質を高められる環境の構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き業務の精選を行っており、分担と協働により個々の教職員の負担が減るようになっている。</li> <li>・教員のライフ・ワーク・バランスの意識が向上し、仕事に対しても生き生きと取り組める雰囲気ができつつある。</li> <li>・分掌や年次、教科等の協働体制が確立し、風通しのよい職場環境が作られている。</li> </ul>	評価	B
改善方策	教員だけでなく地域の意見も取り入れながら、前例にとらわれない行事や業務の進め方を考える必要がある。それにより、個々の教員の負担を減らすとともに、生徒と向き合う時間を大切にしていく。	良い教育環境は先生たちの健康が一番です。健康に留意され活動してください。	
公表方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校ホームページ</li> <li>・学校評議員会</li> </ul>		